

出雲ウナギを増やそう

一 宍道湖・中海水系におけるウナギの生態調査事業一 (概要版)



中海のウナギ(昭和52年頃)
安部幹雄氏:松江市本庄町

平成28年3月24日

自然と人間環境研究機構
島根県水産課

出雲ウナギ ???

質問：大阪に「出雲屋」という鰻屋が多いのはなぜか。

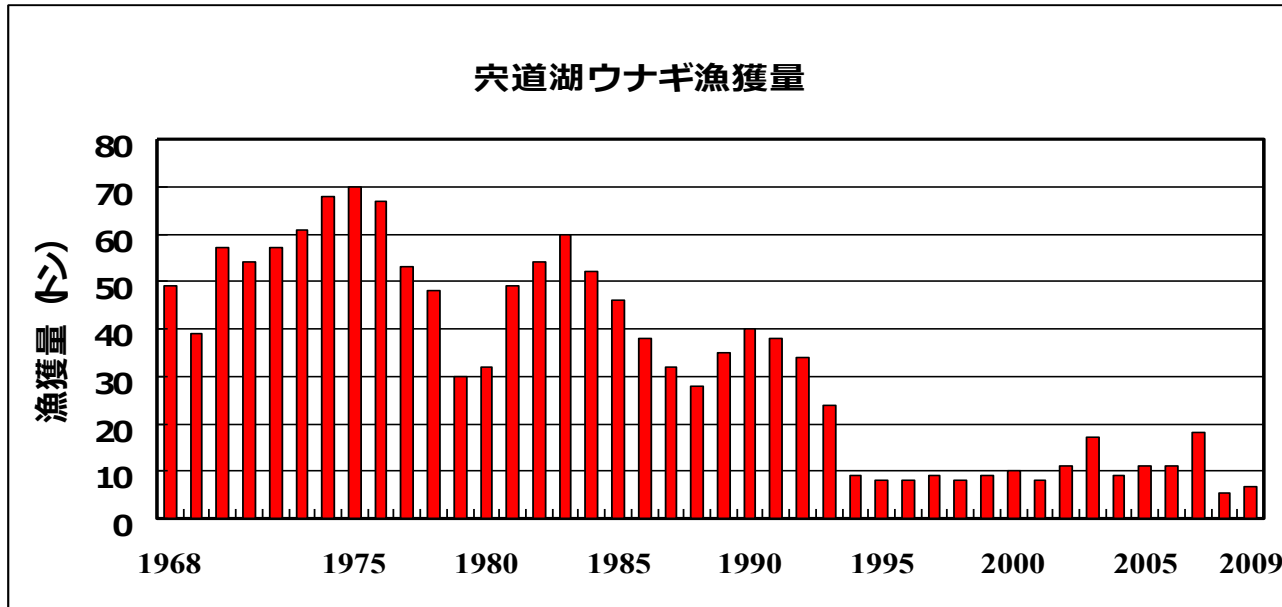
資料1：「上方では業態を屋号で表してきた」とあり、「**鰻の蒲焼き屋は「出雲屋」**で、1948年ごろ大阪旧市内だけで3百余軒あった」。

資料2：「西のウナギの調理技法は、この**出雲ウナギ**（穴道湖・中海の天然ウナギ）から伝えられたものといわれる」。

資料3：江戸中期、**中海の安来港を中心とする海域**で「ウナギ」の豊漁が続き、大阪・京都にウナギの販路を広げようと考えたのが「ウナギの道」の始まり。

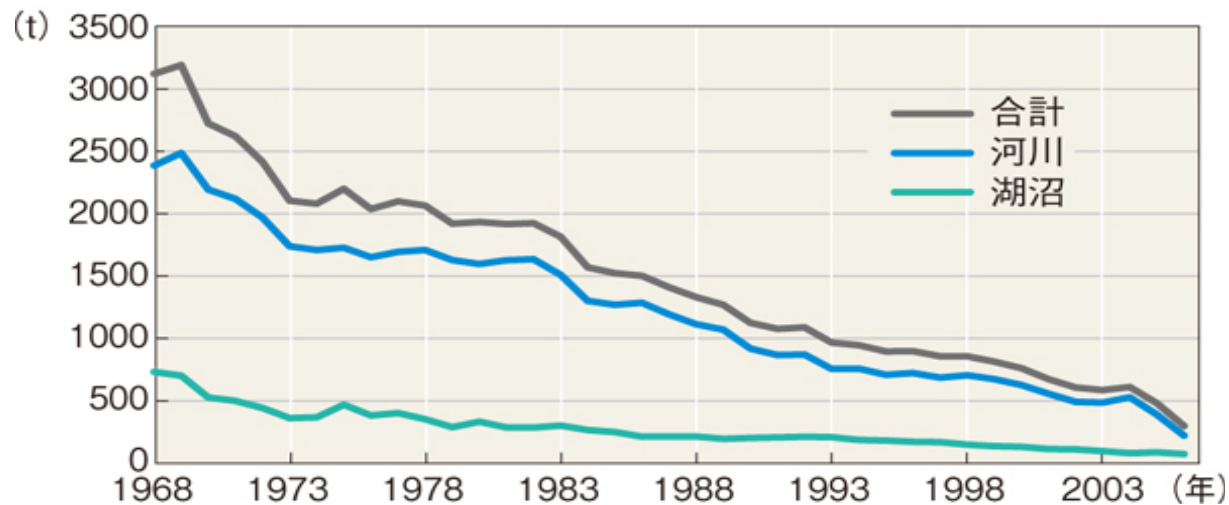
資料4：「今でこそ鰻の本場は一般に遠州と考えられているが、それは養殖鰻のことで、**天然産は何と云っても出雲が第一**だ。さればこそ、出雲に何の縁故もない人が大阪の四ツ橋で「出雲屋」を名乗って代表的の鰻屋を営んでいる仕末、併しそれには次のような沿革がある」として、安来から大阪へ鰻を卸していた話あり。

出雲ウナギは大きく減少！



宍道湖の天然
ウナギ漁獲量
(宍道湖漁協より)

1965年頃**100トン**
1995年頃から減少
2013年には**5トン**



日本全国でも
天然ウナギは
同様に減少

日本の湖沼と河川における黄ウナギ漁獲量の経年変化
(農林水産省農林統計部「漁業・養殖業生産統計年報」より)

出雲ウナギを増やそう

寄附者設定テーマ型協働事業
アサヒビール株式会社山陰支社
うまい！を明日へ！プロジェクト

平成27年9月～28年3月
「宍道湖の環境保全」協働事業：島根県水産課



出雲ウナギを増やすために、

1. 聞き取りによるウナギの生態を把握
2. 水環境の整備の方向性を検討

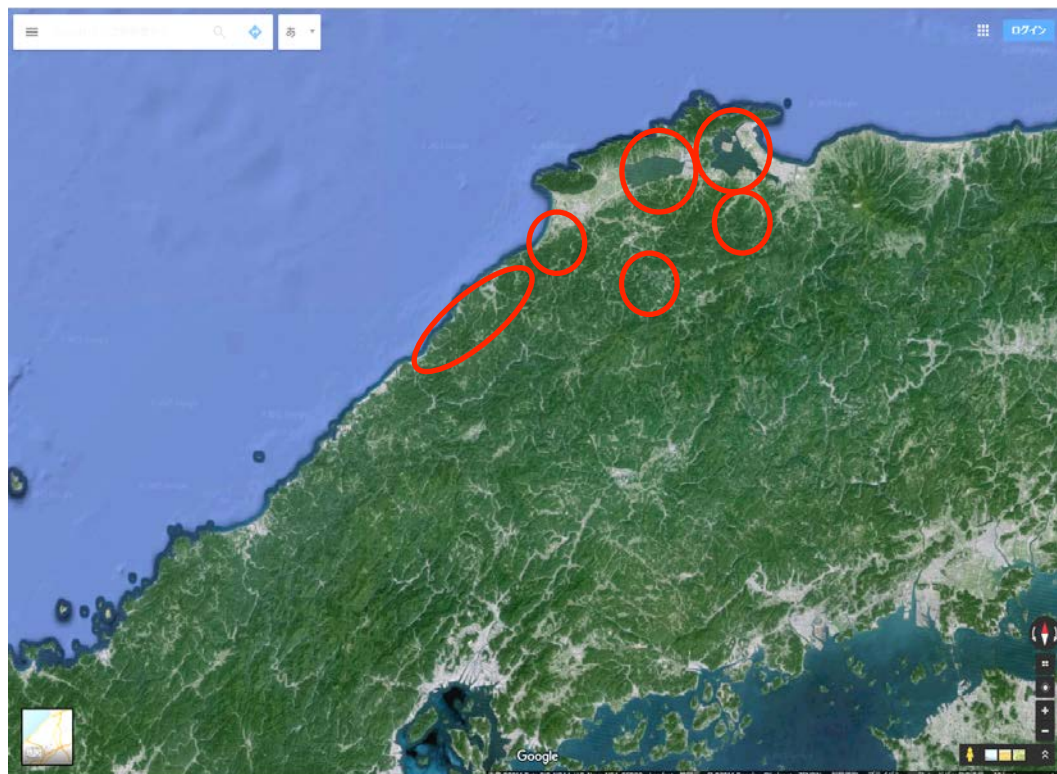
これより、

1. 生態系の理解から**宍道湖の環境保全**に
2. ウナギ生産力の増強から**地域振興**に

聞き取り調査：H27年9月～H28年3月

1. 聞き取り調査

- ・ 中海、宍道湖、大橋川、佐陀川
- ・ 飯梨川と斐伊川上流
- ・ 大社堀川
- ・ 島根半島小河川
-
- ・ 浜田川、益田川
- ・ 佐鳴湖
(静岡県浜名湖の近く)
-
- ・ 漁師、釣り人約25名
(聞き取り担当6名)
-
- ・ 調査票提出者 6名



2. 参考

- ・ 島根県中部の中小河川
(県自然環境課河川調査)
- ・ 神西湖：県水産技術センター
(聞き取りとシラス採取調査)

聞取り調査の方法：穴道湖



惠曇
佐陀川
潟の内
古曾志川
浜佐陀
長江干拓
秋鹿
伊野
平田
斐川
穴道
来待
大橋川
朝酌川

- ・年代：戦前から現在まで
- ・相手：昔からの漁師と釣り人、昔ウナギ取りをした人など
- ・漁法：漬け針・穴釣り(少年時)、夜釣り、延縄、マス網、シバ漬け、エビ籠、ウナギ筒

宍道湖北岸での聞き取り？



長江干拓堤防湖岸：2015年2月

- ・夏の夜、堤防湖岸でエビ取り
テトラのなかにウナギがいた。

- ・延縄に5月始め湖底の泥から100g位の出ウナギ
- ・次に海から昇る青ウナギ
大きく旨い。これが8割
- ・マス網には9月終わり頃
降りウナギのピーク
- ・ウナギもエビも減った。
2014、2015年は悪い。
- ・昔、溝で黒子を多く見た。

- ・延縄は岩場がよい。砂を
まいたら釣れなくなった
- ・昭和37年盆、打出沖の
岩場で穴釣り。1日で
1貫目のウナギを釣った

中海での聞取り？

ウナギ突き漁とは



ウナギ突きのヤス



- 漁場は中海全域の浅場
 - 漁期は春5月頃から秋10月頃まで。夕方6時頃から夜10時頃までの数時間。
 - どのくらい獲れるかと言えば一晩に3～4本
-
- 昔は、鉛筆くらいの稚ウナギが沢山いた。シラスも多かった。

河川では？

生息域や生息場所は、
地域の努力によって増やせる。



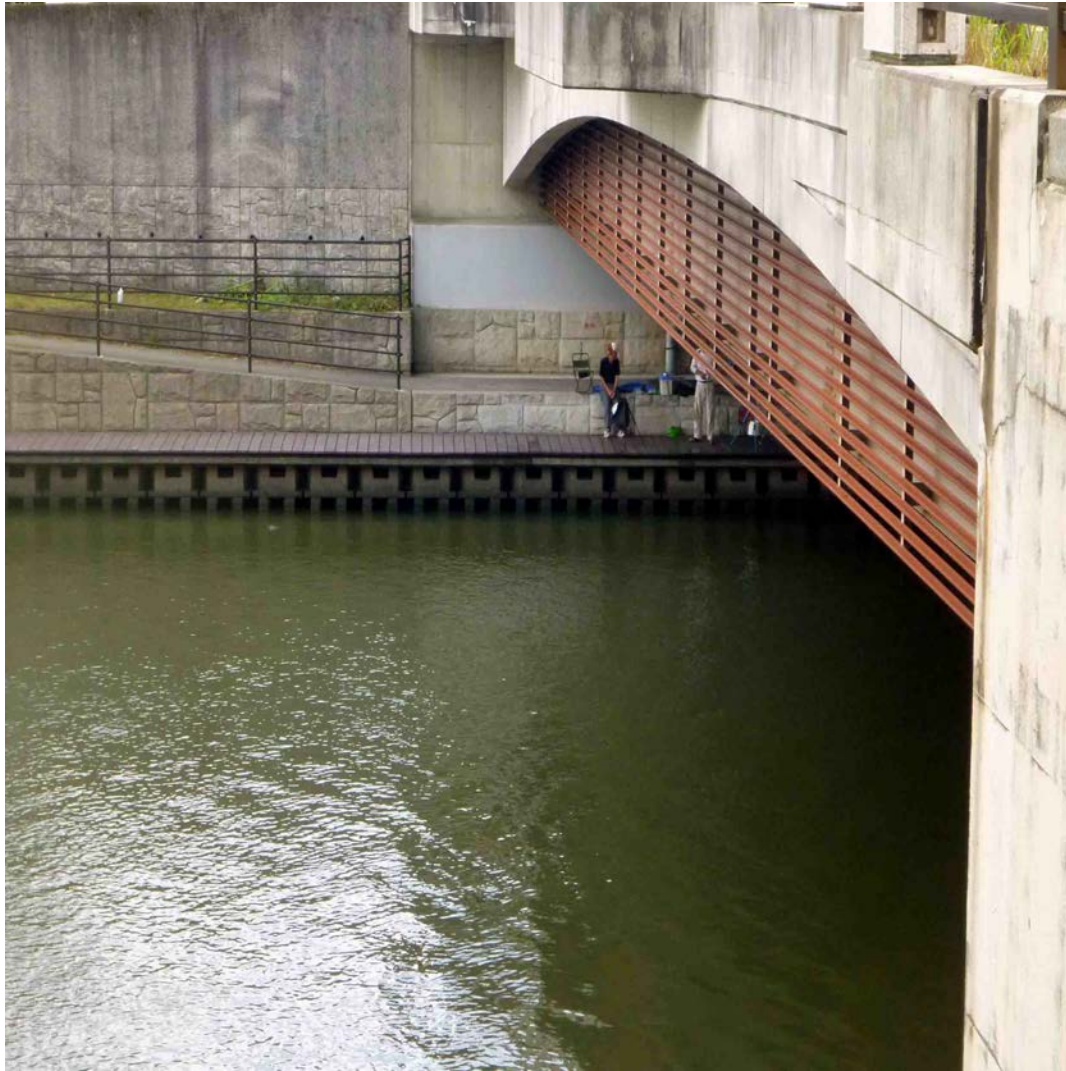
上流への遡上の障害
(生息域の減少)



棲家や餌など生息の障害
(好ましい生息場所の減少)

佐鳴湖では？

佐鳴湖（浜名湖の隣の汽水湖）ではテナガエビ採りとウナギ釣りを住民が楽しんでいる。



住民からの要請で、
動物に配慮した護
岸にした（一級河
川ではないので、
県で対処できる）。



- ・ウナギの寝床護岸
- ・エビも多い

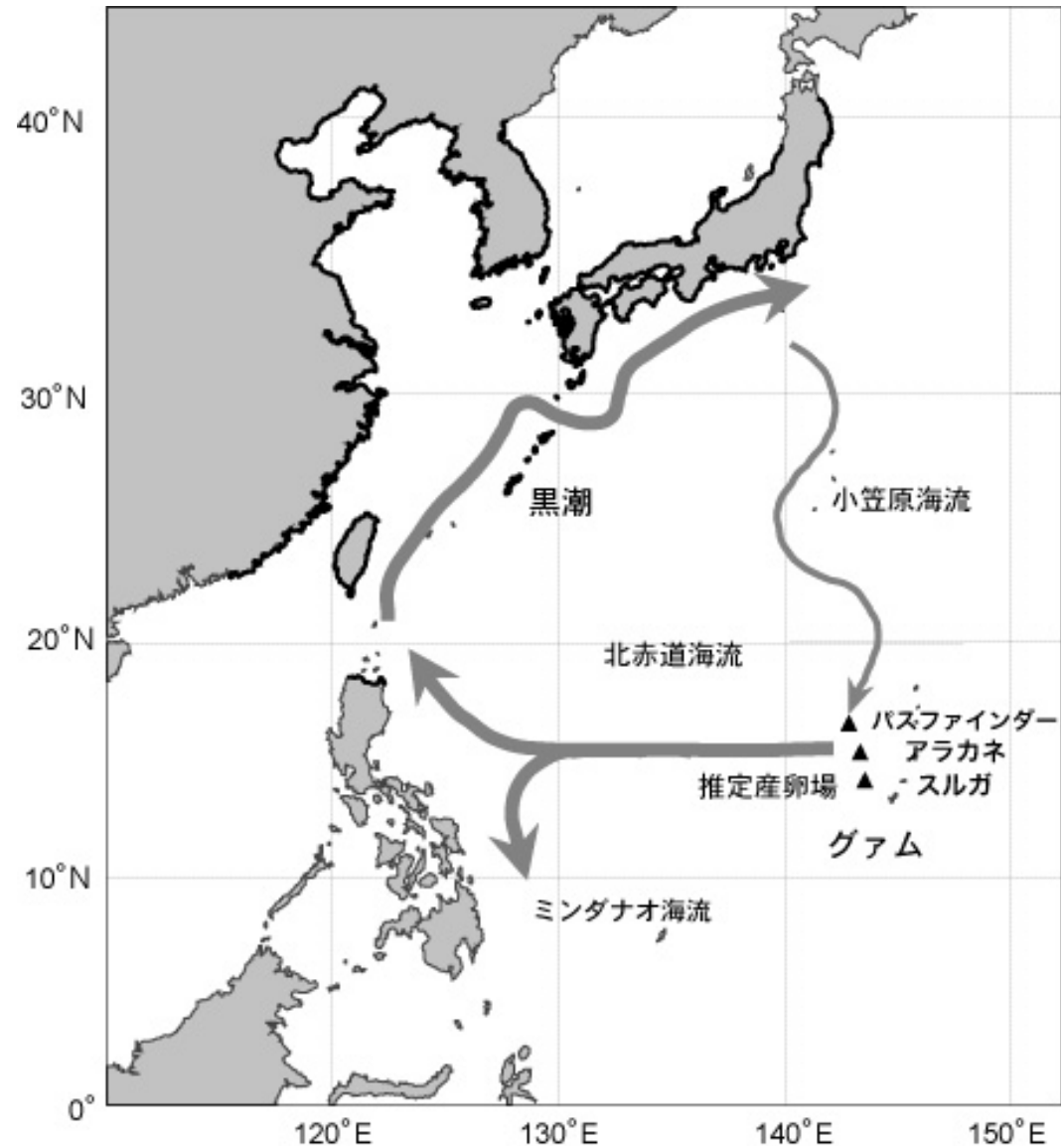
調査からの結論

ウナギは回遊魚

シラスウナギが漂着し
沿岸から河川に上る

出雲ウナギを増やそう

1. ウナギの来遊量は
地域の努力では増えない。
2. 生息域や生息場所
の環境整備は地域の
努力によって可能。



具体的な方法？

【穴道湖での意見】

1. 適切な隠れ場と餌場
(生存率と成長率が高まる)
 2. 深みで石のある場所がよい
(エビとウナギの付く場所)
 3. 山のグリを1mほどまく
(いろんな魚が隙間を選ぶ)
 4. 捨て石や砂留めの石の利用
(大きい石も入れる)
 5. 粗い石組みの護岸を残し、
生態系に配慮の河川改修
- * シラスや産卵するウナギを
取らないような工夫
 - * ウナギ稚魚の持続的な放流



ウナギもエビは大好き

→ 直ぐには出来ません！

知恵を絞って
出来ることから！

報告会の開催：H28年2月26日

1. 聞き取りなどの報告

- ・ 河川調査から
- ・ 中海のウナギ
- ・ 宍道湖の聞き取り

2. ウナギを増やすには

- ・ 望ましい湖沼環境
- ・ コメント(宍道湖漁協)
- ・ コメント(県水産課)

* ウナギ漁具等の展示



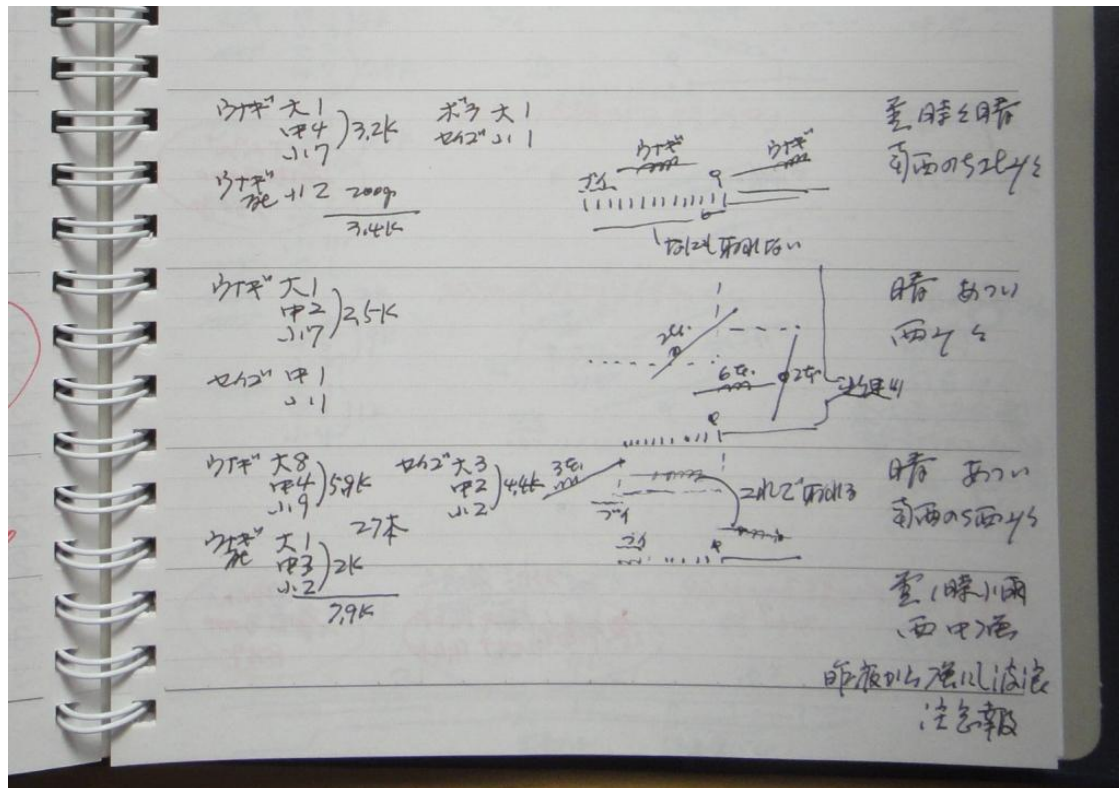
参加者 約60名

テレビ新聞報道 6社

次年度以降の予定

- 来年度は、これまでに得られた資料の解析を進め、より詳細な環境整備方法を検討する。

央道湖西部での漁獲日誌 1997年～2015年まで



- 継続して結果の普及を図り、ウナギにとって望ましい棲家や餌場の環境整備に役立てる。

出雲ウナギを増やそう

－宍道湖・中海水系におけるウナギの生態調査事業－

アサヒビール山陰支社様を始め、お世話になりました皆様に厚く御礼申し上げます。有難うございました。



中海湖岸：松江市大井町2015年3月